みんなのとしょかん

市民図書館
TEL（921）4646
FAX（921）4896
http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

あたらしくはいった本（令和5年1月貸出開始資料から）

●小説　江戸一新（門井慶喜／著）　ある愛の寓話（村山由佳／著）　祝祭のハングマン（中山七里／著）　ワンダーランド急行（荻原浩／著）　戦国十二刻（木下昌輝／著）　名探偵外来（似鳥鶏／著）　一睡の夢（伊東潤／著）　継ぐ者（上田秀人／著）　樹林の罠（佐々木譲／著）　踏切の幽霊（高野和明／著）　妖の絆（誉田哲也／著）　名探偵の生まれる夜（青柳碧人／著）　遅刻する食パン少女（田丸雅智／著）　鹿狩りの季節（エリン・フラナガン／著）　グリーン・ロード（アン・エンライト／著）

●随筆・詩などの文学　三谷幸喜のありふれた生活17（三谷幸喜／著）　笑犬楼vs.偽伯爵（筒井康隆、蓮實重彦／著）　父のしおり（石原慎太郎／著）　古典モノ語り（山本淳子／著）　諦念後（小田嶋隆／著）

●その他の本　一年中冷え知らずごはん（ワタナベマキ／著）　スマホ失明（川本晃司／著）　ベスト・オブ・平成ドラマ！（小林久乃／著）　フリーランスがインボイスで損をしない本（原尚美／著）　認知症といわれたら（繁田雅弘／監修）　電力崩壊（竹内純子／著）

『江戸一新』
門井慶喜
中央公論新社

『三谷幸喜のありふれた生活17』
三谷幸喜
朝日新聞出版

『笑犬楼vs.偽伯爵』
筒井康隆、蓮實重彦
新潮社

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

としょかんカレンダー

令和5年3

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	◯6	7	8	9	10	11
12	◯13	14	15	16	17	18
19	◯20	21	22	23	24	25
26	◯27	28	◯29	30	31	

◯印の日は、お休みです。
開館時間　午前10時から午後6時まで
金曜・土曜（祝日除く・太字の日）は午後7時まで

太宰府の文華
～公文書館だより⑦～

亀井昭陽と梅ヶ枝餅

亀井昭陽（南冥の長子）の著作の一つに『烽山日記』があります。文化6（1809）年から7年にかけて、福岡藩の烽火台（烽火＝のろし）番士を勤めた体験を記した漢文日記で、昭陽の文名を高めた作品として知られています。

烽火台の設置は、文化5年の英軍艦長崎港侵入事件をきっかけに、長崎警備体制が強化されたことによります。福岡・佐賀藩内に烽火台を設置し、有事の際の連絡手段として長崎から小倉までの烽火リレー体制が整えられました。福岡藩は天山（御笠郡）、四王寺山（糟屋郡）、淘籮嶺（ショウケ越、穂波郡）、龍王山（同上）、六ヶ岳（鞍手郡）、石峰（遠賀郡）の6カ所に烽火台を設置しました。甘棠館廃止後、城内組平士となっていた昭陽は、この烽火番を命じられます。番士は3人1組、十日ごとの交代制。実際は欠勤者も多く、昭陽は「70人の番士のうち半数が病欠なので忙しい」とこぼしています。一方昭陽自身は、見張りに立つ時間以外は読書や著述をし、弟子や知人から酒肴の差し入れや陣中見舞いを受け、烽山勤務にも楽しみを見出していたようです。

『烽山日記』によると、文化6年12月20日、四王寺山での勤務のため、百道松原の自宅を出発し水城村から入山。25日には山を下り、宰府村光蓮寺で月命日の母のために線香をあげ、同村岩淵に住む弟の雲来を訪ねます。弟宅で雪に汚れた足を洗い、のんびりと酒を飲み、良い気分の帰り道、山で待つ同僚への土産に梅ヶ枝餅を買い求めました。梅ヶ枝餅について昭陽は次のように記しています。「梅ヶ枝餅は焼き餅である。米粉の餅に小豆餡を詰め、凹字の型の鍋に押し付け、薄く平らになるように焼くと、表面に梅花の模様が立ち上がる」（原文は漢文）。約200年前、昭陽が目にした梅ヶ枝餅は現在とさほど変わらぬ姿だったことが分かります。果たして、持ち帰った宰府土産の梅ヶ枝餅は「皆蔗餳癖有り。喜ぶこと甚だし」（皆甘党なのでとても喜んだ）と同僚たちに大好評だったのでした。

太宰府市公文書館　荻野　寛美

【バックナンバーはこちら】ページID7241